

浜松城の特徴

浜松城は、曳馬城という小規模な城の跡地に建てられました。曳馬城は 1500 年代初めから半ばに今川氏が建てた城です。今川氏を破った徳川家康（1542～1616 年）は、1570 年に曳馬城の辺りに本拠地を移し、曳馬城よりも大きな城の建造を始めました。伝説によると、家康は「曳馬」が不吉であるとして城の名称を変えたと言われています。「曳馬」は漢字で書くと「馬から降りて、馬を曳く」の「曳」と「馬」となり、侍は馬から降りると戦に負ける恐れがあったのです。現在の名称の「浜松」には「浜辺の松並木」という意味があります。

1867 年に徳川幕府が倒れると浜松城は解体され、その敷地の大半は売却されました。現在の天守閣は 1958 年に再建されたものですが、石垣は徳川家康の直後に浜松城主となった堀尾義春（1543～1611 年）によって築かれたと考えられています。この石垣は野面積みでできています。野面積みはそれぞれの石の最も大きな面を表にして積み上げていく方法です。積み上げた大きい石の隙間に小さい石を埋めるようにして入れていきます。この頑丈な石垣は現在まで数百年ももちこたえており、十分な排水性と優れた耐震性を発揮しています。